

第7回 常滑市立図書館基本構想策定委員会 議事要旨

日時：令和8年2月13日（金）
14時00分～16時20分
場所：常滑市役所1階 会議室I

1 開 会

2 議 事

(1) 基本方針について

事務局より 資料1 に基づき、基本方針について説明

(井村美里 委員)

- ・方針5の目標③については、自分の前回の発言を受けて変更いただいたものと思うが、とてもオープンに書いていただき、素敵な文章になったと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・他の委員で意見はあるか。
- ・他に意見はないようなので、基本方針については本日の内容で決定することとする。

(2) 基本理念について

事務局より 資料2 に基づき、基本理念について説明

(久田博司 委員)

- ・議事の順番ではなく、基本理念があって、その下に基本方針がある形と考えればよいか。

(事務局)

- ・お見込みの通り。

(山際史子 委員)

- ・ワークショップでみんなが考えてきたことや、策定委員会で話し合

ったことを言葉にさせていただいた。いい言葉ではあるが、もう一つ語感が良くないので何とかしたい所だが。

(豊田雄二郎 委員)

- ・どう表現するかは難しいが、奥深さというものが必要だと思う。事務局案でも良いとは思いますが、もう少し味わい深いものにできたらなと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・基本理念に込めた思いの部分は、みなさんこれで良いと思うが、それを一行にまとめるのが難しい。行政が作るとどうしても固くなってしまう。豊田委員でお力添えをお願いできないか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・承知した。少し時間をいただいて考えてみる。

(山田朝夫 委員長)

- ・検討するにあたり、他の委員で豊田委員へ伝えたいことはあるか。

(中井孝幸 委員)

- ・基本理念に込めた思いの部分も、基本理念と整合性が取れるように合わせて修正いただきたい。

(井村美里 委員)

- ・基本方針がすべて「～したい」のような人が主語になっている。変化していくというか、何かのきっかけになるような図書館、そんなイメージが込められるといいなと思う。

(赤尾恵子 委員)

- ・市民ワークショップが始まったときは、図書館の本のことや、居場所ばかりに目が行っていたが、これまで議論を重ねる中で、豊田委員の「自分で考えて行動し、それを後押しする場所にしたい」という発言を聞いて、お金をかけて立派な図書館を作るだけでなく、人が考えて作り出すという視点を得られたのがとても良かったと思っている。

(中井孝幸 委員)

- ・図書館に関する調査をしていると、地域で図書館を使っている人は3割位で、7割の人は図書館を使っていない。まずは図書館に来ていただかないと始まらないので「出会う」というきっかけがとても大事だと感じている。基本方針の「～したい」という書き方は非常に良いと思うので、理念でも、いつも図書館を使う人だけでなく、もっと開かれていて、図書館を使ったことがない人でも使ってもらえる、そんな雰囲気には是非していただきたいと思う。

(中井明子 委員)

- ・「出会う」ということが大切だという発言を聞いて、「ふれ合う」という言葉もいいのではないかと思った。「知識を重ねる」というところで、市民のみなさんが出会って、その後、互いに良い影響を受けな

がら一緒に勉強して、ひとつのプロジェクトを考える、それらの分かりやすい言葉として素敵だなと考えた。

(平野小月 委員)

- ・図書館という、その名前から勉強する所、本の貸し借りをする所という印象があるので、「誰でも使える」「誰でもきていい」というのが一目でわかるといいなと期待している。

(山田朝夫 委員長)

- ・先ほど3割位の方が図書館に来るという話があったが、旧本館の時代のそういったデータは持っているか。

(山際史子 委員)

- ・統計では、本を借りている人は1割程度だが、集計はとっているわけではないが、入館者数でいうと、実際はもっとたくさんの方が利用していると感じている。

(中井孝幸 委員)

- ・公共施設の中では他の施設に比べて人口の1割以上は高いと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・単に貸したり返したりだけでなく、図書館という空間の中で本を読んでいる人たちがいてもいいと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・行政側としても、せっかく作るのであれば、ぜひそうなって欲しいと思っている。

(久田博司 委員)

- ・自分も同じで、単に本の貸し借りだけでなく、何かを生み出すような存在になるといいなと思っている。もちろん実際に図書館に来てもらっても良いし、方針に書かれているDXなどを通じてでも良いので、市民が触れ合う機会が増えていく、そんな空間になると、図書館の使い方の枠がもっと広がってくる。それなら、ある程度お金をかけても価値が出てくると思う。

(3) 基本構想(素案)について

事務局より 資料3 に基づき、基本構想の構成について説明

参考資料1 に基づき、追加で記載した、以下の事項について説明

(説明事項)

- ・市民ワークショップや策定委員会でも意見の多かった市有地⑤(市民病院跡地)付近に中央館を整備する場合の既存施設のあり方について(第2部-第4章-第4節)

- ・財政調整基金及び市債残高について、全国の類似団体との比較（第3部－第2章－第1節）
- ・従来方式ですぐに整備にとりかかった場合のスケジュール（第3部－第3章－第1節）、今後、事業化を進めるうえでの課題（同第2節）
- ・事業化までに時間がかかる場合の代替案（第3部－第4章）
- ・基本構想策定後に検討が必要な課題（第3部－第5章）
- ・市側が、今後事業を進めるにあたって、策定委員会として、留意してほしい事項4点（おわりに）
- ・基本構想には共通意見としてまとめられなかった各委員の思いを巻末に「委員のコメント」として掲載したいと考えているため、寄稿をお願いしたい

全体の構成について

（豊田雄二郎 委員）

- ・これから図書館を整備するという基本構想なので、最初に結論があって、その結論を導くにあたっての、現状があり、経緯がありという流れになると思うが、今の構成では時系列になっていて違和感がある。

（中井孝幸 委員）

- ・事務局の構成となっている基本構想も多い。ただ、今回の常滑市の場合は、現状の整理の部分が丁寧で、他の自治体に比べて分量が多いため、読み込んでいかないと結論までたどり着かないのが課題だと思う。

（久田博司 委員）

- ・構成を変えるよりは、「はじめに」の部分に、全体像がわかるサマリーのような内容を付けてはどうだろうか。

（山田朝夫 委員長）

- ・概要版のようなイメージか。

（中井孝幸 委員）

- ・概要版は別に作ると思うので、「はじめに」の中に、まず基本理念がきて、次に基本方針の5つの柱をこう決めた、ということが書かれていて、その経緯や分析などはこの後に続きますという流れだとわかりやすいのだと思う。

（山田朝夫 委員長）

- ・事務局は、次回までに「はじめに」の内容を考えること。

スケジュールの検討（第3部－第3章－第1節） 事業化までの代替案（第3部－第4章）

（豊田雄二郎 委員）

- ・個人的には、スケジュールには、はっきりと2030年度までに新しい図書館を作るんだと言い切ってほしい。
- ・資料に「今後すぐに財源確保を始めたとしても」と書いてあるが、新しく図書館建設基金のようなものを作っていくイメージだと思う。ここから何年度かにわたって、財政調整基金を取り崩していくという現状の中で、別に積み立てていくだけの力があると考えて良いのか伺いたい。

（山田朝夫 委員長）

- ・非常に厳しい。今の常滑市が何とかやれているのは、ポートルースが好調で、そこから繰出金として市に入っているためである。その繰出金の一部を少しずつ積み立てることになると思う。
- ・本当は、基金を一気に使って、図書館を建ててしまいたい気持ちはあるのだが、結局、過去にそのような財政運営をしてきた結果が、貯金が少なく、借金が多いという現状につながっているため、それはできない。

（豊田雄二郎 委員）

- ・財政的に非常に厳しいのは自分も理解している。財政に詳しい方に常滑市のことを見てもらっても、やはり50億円というのは大変だということが分かる。
- ・ただ、今から財源確保をはじめて10年、15年というのは、現実的ではなく、積み立てられるとは到底思えない。
- ・以前からも言っていることだが、政治的判断で「2030年度までに新しい図書館を作る」という決断をしないといけない。策定委員会はそのことを後押しする立場で、そういう結論の基本構想にすべきではないだろうか。
- ・この場で議論することではないと思うが、名古屋市が先に減税をすると決めて、そのために年間100億円規模のコストカットをしたように、先に結論を出して、コストカットをしていく位でないと、お金を生み出せないと思う。

（山田朝夫 委員長）

- ・コストカットの話が出たが、20年以上前であれば、お金を生み出せたが、20年前に職員の給与まで踏み込んだかなり厳しいコストカットをして、今の段階にまで戻している。市民サービスや市民団体への補助金も削るなどしており、削りしろがないというのが現状である。

（豊田雄二郎 委員）

- ・別の観点から問題提起すると、単独整備では厳しいので、複合化も考

えられると書いてあるが、民間の視点がないというのが気になる。

- ・岩手県のオガールプラザのように、常滑市が単独で公共施設をつくるのではなく、官民連携して整備するという事例もあるのではないだろうか。

(久田博司 委員)

- ・基本構想として最終的に何らかの整備案を提示することになると思うが、仮に「30年間で182億円の事業費は過大である」として市議会で否決された場合、今回事務局から示されている「時間がかかる場合の代替案」以外に、図書館本体の整備について何らかの対応を検討する記載は盛り込まないのか。
- ・また、前回、建てるか・建てないかという0か100ではなく、最小規模だったらこれ位というレンジを盛り込むべきではないのかと発言させていただいた。現在は整備費だけで52億円と示されているが、仮に整備が10年、15年先となった場合、建設費の上昇により整備費が100億円を超える可能性もある。そのような状況になれば、整備そのものが現実的に困難になるのではないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・規模を縮小するという話が出た。はじめ常滑市規模であれば3,500m²位が標準というのは、たしか中井孝幸委員から出たと記憶しているがどうなのか。

(中井孝幸 委員)

- ・事務局の3,840m²は決して過大とは思わないが、2030年開館のスケジュールに乗せるために、規模を縮小することは考えられる。
- ・費用を捻出しないといけないのであれば、規模を3,000m²に、あるいは思い切って何とか2,500m²ということを考えることはできる。図書館は「小さく産んで大きく育てる」という施設ではないが、例えば後々、閉架書庫は増築するという前提で、将来的な開架スペースをまずは閉架書庫としておくという設計ができないわけでもない。
- ・予算を縮小するために、設計料まで削ってとなるとなかなか良いアイデアは出てこないが、きちんと対価を払えば、将来的な対応ができる設計、ローコストにできる設計を出してくると思う。
- ・こういった内容は、今後、基本計画で議論していくことになるが、いったん基本構想の段階では、久田委員が言われたように、松竹梅のような何段階か作っておいても良いと思う。
- ・「鉄は熱いうちに打て」というように、今これだけ機運が上がっている中で、「やっぱり10年待ってください」というのは市民感情としてどうかと思っている。

(山田朝夫 委員長)

- ・恐らく、松・竹・梅を計算するのは可能だと思うが、先ほど久田委員からご発言があった182億円には運営費が入っている。面積を小さ

くすれば、維持管理費が少しは減るだろうが、それでも、建設費よりインパクトが大きく、後々、ボディブローのように効いてくる。

- ・また、そうは言っても、建設費自体も大きいので、自治体の負担を減らせるような国の制度が何か使えないかと模索することはしていかなければならない。

(豊田雄二郎 委員)

- ・例えば、3,000m²あるいは2,500m²に縮小するという時に、建設費以外の部分も試算はできるのか。

(中井孝幸 委員)

- ・費用の積み上げの計算式を見ていただくと、蔵書が15万冊でという前提から始まっているので、それを12万冊あるいは10万冊というように減らしていくことになる。

(山田朝夫 委員長)

- ・松・竹・梅というが、どこまで面積は減らせるのか。半分まで減らすということもあり得るのか。

(中井孝幸 委員)

- ・2,500m²であれば、きちんとした図書館サービスを提供できる。
- ・上に積むとエレベータなど費用もかかってくるので、増築も容易な平屋建で2,500m²が最低限ではないか。

(事務局)

- ・確認だが、これまでの委員会の中でも3,840m²を小さくできないかという議論があったが、減らすのは難しい、優先順位を付けるのは難しいといった議論があった。基本構想(素案)の77頁で必要な機能と、付加的な機能の2段書をしているが、それぞれを薄削りにしていくのか、思い切って何か削るのかどうすべきか。

(中井孝幸 委員)

- ・何かの項目を思い切って削る議論をするよりは、例えば3,000m²を考えるのであれば、全ての部門の面積を、3,500分の3,000に設定するような形の方が、今の段階では適していると思う。
- ・今後、詳細な計画を進める中で、やはりカフェはどうしても欲しいとなれば、何かを削って捻出するという事を考えれば良い。建設費については、今は設計前なので、1m²あたり100万円で計算しているので、基本構想の段階ではそれで良いと思う。

(山際史子 委員)

- ・松・竹・梅で最低限はこれという基本構想を作るのも必要だと考えるが、予算がない中でそれをしてしまうと、結局、一番小さいものになってしまうのではないか。

(山田朝夫 委員長)

- ・これまでにそういった議論があり、まずは理想形を出すべきという話も確かにあった。それで、理想形の最低限である3,840m²を出

している。

(山際史子 委員)

- ・理想形の最低限の面積に松竹梅を付けるのには違和感がある。

(豊田雄二郎 委員)

- ・3,840m²で、策定委員会として話を持っていった時に、「話にならない」と言われることを避けたいために、少し減らしてでもという議論をした。問いかけとしては間違っていないと思うが、ただ安ければ安い方が良いという話ではない。

(山際史子 委員)

- ・仮に松・竹・梅の梅になって面積が3分の1になったとしても、182億円が3分の1になる訳ではない。そう考えると、策定委員会としては、最低でもこれだけのスペックのものが欲しいと言った方がよいのではないか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・基本構想に書いてある3,840m²が望ましいという前提として、参考でこれ位に減らせばこうなるというのを出すのはおかしくないと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・松・竹・梅のような複数案を出す必要まではないのかもしれない。今、52億円では議論にもならないが、これ位であれば俎上に載るといのがあればそれだけでも良い。
- ・最終的には政治的判断だと思うが、52億円はとても無理だとなったときの判断材料の一つとして、その他の事例とともに、載せておいてはどうかというイメージである。

(久田博司 委員)

- ・財政のことなどを含めて考えたとき、自分が住宅ローンを組む時と同じだと思う。これだけの収入で住宅ローンを組むとなった時に、理想はこれで、最低限はこれ、それも満たせないなら、このまま賃貸で行こう、そんな話ではないか。
- ・市民ワークショップであれば「理想形で行こう」というのも良いと思うが、策定委員会では落とし所というか、「理想形でいけば市民ワークショップの意見を全て取り込めるが、財政を考えると10年から15年後になるというデメリットがある」、「これ位の規模であれば、機能は満たせるし、もう少し早く計画が進められる」、そういった提案があっても良いのではないか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・先ほどのマイホームの例を借りると、自分が一番懸念しているのは10年後にお金は貯まりました、でもその時には、子供は全員、家から出て行って、実際に部屋を使う人がいない、そんなことが起きてはしまわないかということである。

- ・別の議論の際に言おうと思っていたが、これから市外から移り住んできて欲しいという時に、図書館がなくなった街というのは非常にインパクトが大きいと感じている。図書館がない街に、子育て世代の方来てくださいとはとても言えない。

(井村美里 委員)

- ・自分はワークショップの一員として、市民のみなさんの理想の形の図書館が早くできるといいなと思ってここにいるので、策定委員会として「これが一押し」という風に出すのには違和感はない。
- ・ただ、やはり選択肢として、こういったものも、ああいったものもありますというのを見せた上で、判断してもらうのが良いのではないかと思っている。その一つとしてテナント型も良いのではと思ってこれまでも発言させていただいている。
- ・例えば、3,840m²のうち、テナント施設に、カフェやホール、機械室やトイレがあれば、それだけでも面積がぐっと減る。また図書館の館長をしていた経験から、施設を持っていると、本当は図書館サービスに注力したいのに、それ以外の施設ことをやらなければならないのは非常に煩雑であった。施設を持たずに借りられれば、サービスを充実させることができる。
- ・テナント型でも管理費はもちろんかかるが、施設を持っていると起こる、例えば「エアコンが壊れた、直さなきゃ」、そういったものが無くなるので、テナント型というのも捨て難いと思っている。
- ・これまで委員会で話してきた、基本理念や基本方針は、ハードに対して言っているのではないので、ハードを持たずとも実現できると思っている。

(山際史子 委員)

- ・テナント型という話が出たが、自分も一つの方法としてはあるかなと思っている。井村委員が言われたように、施設を持っていると、図書館サービス以外のことで、色々と気を遣わなければいけないものがあるので、先ほど話していた、選択肢の一つとして、テナント型というのも入れてはどうかと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・個人的にはテナント型というのは反対の立場である。
- ・まずは音の問題、それから商業施設であれば、週末の渋滞の問題もある。テナントにすぐ入れるというイメージも誤りで、契約なので来年すぐにとというのは難しい。
- ・もっと言うとテナント施設が撤退してしまったらどうするかというリスクもあり、みなさんが思っているほど都合が良いものではないということは、取材をしても分かっているので、それは伝えておきたい。

(中井孝幸 委員)

- ・事業化までの代替案ということで基本構想（素案）の99頁から、コンバージョンやテナントが書いてあるが、やはり個人的には、早く図書館を整備して、色々な地域の課題を解消したいと考えているので、その中の一つとして、規模の縮小の提案も書いて欲しい。松竹梅で、それぞれの形が書かれる必要まではないが、縮小してでもやるという方法をぜひ書いていただきたい。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局も同じで、そういった意図で、基本構想の中に代替案という形で盛り込んだのだと思う。

(事務局)

- ・先ほど、久田委員からも問いかけがあったと思うが、図書館が建てられない、あるいはすぐには建てられないという状態になった時に、できるようになるまで待つというのが、常滑市の状況として相応しいかと考えたときに、そのような選択肢はないだろうかという意図で記載させていただいた。
- ・中井孝幸委員が、松・竹・梅を記載することまでは必要ないと発言された。事務局でも、どれ位の規模だとどれ位の費用がかかるか、複数の案を算出するのも一つ方法としてはあるかと考えたが、それは、どういう方針でやるかという具体的な基本計画の所で、より詳細に詰めるべきと考え、現在は記載していない。

(平野小月 委員)

- ・10年～15年という話が書かれているが、今からそれだけ経ってしまうと自分たちの世代は定年を迎えてしまうし、自分たちの子供の世代もすっかり大きくなってしまう。
- ・昔の本館を知っているのも、当時、毎日来ていた人たちの居場所がなくなってしまうのも事実である。
- ・良い図書館が欲しいと思ってこの委員会に参加しているので、中井孝幸委員の「鉄は熱いうちに打て」ではないですが、理想の図書館が小さくなくても良いので、早くできてほしいと思っている。
- ・ただ財政状況が厳しいという所は、一市民としては意見し難い所なので、色々な選択肢から、常滑市としてよく考えてほしい。

(豊田雄二郎 委員)

- ・これまでの議論を振り返ると、図書館は決して箱物を作るのではないということをぜひ伝えたい。一部の行政の人たち、あるいは議会の人たちはまだ、従来の箱物、インフラを作ると考えてはいないだろうか。
- ・箱物の議論の頭でいたのでは、財政的に厳しいので、お金はかけられないと判断しがちだが、集う場所であったり、居場所を作るんだという感覚を持っていただきたい。

(中井孝幸 委員)

- ・以前、島根県海士町の「島まるごと図書館」というものを紹介させていただいた。そこは移住者の方が「町に図書館がない」と言い出したのがきっかけで、学校を地域の図書館にしようとしたところから始まっている。
- ・学校図書館を地域の分館として整備をはじめて、最後に小さな本館を作った。児童書は学校図書館にあるので、未就学児が読む本に絞って面積を小さくした。
- ・なぜ今、この事例を話したかというところ、3,840m² 欲しいが、面積を減らす必要があるのであれば、何か工夫をすれば良いことを伝えたい。中央館を理想より小さくしか作れないのであれば、それだけサービスが小さく、本が少なくなるので、その分を地域の分館でカバーして、常滑市全体でバランスを見て、図書館サービスを考えることもできると思う。

(中井孝幸 委員)

- ・コンバージョンであれば、それを使い続けられる。テナント型の事例だと、つい最近、四日市市で駅前の再開発ビルの計画が白紙になり、そのビルに入る予定だった、図書館の計画も中断してしまっている。それを考えると、本当に一番良いのは、市の土地で整備することだとは思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局も当然、理想の図書館を作りたいと思っている。ただ、それをテナント型でというのは現実的ではないし、コンバージョンできるような建物も今の常滑市では見つからない。
- ・理想の図書館を建てるといえるのは、ここで確立したいが、それまでの間に何もしなくて本当に良いのかと考えている。何のためにワークショップをやったのか、何のためにこの委員会をやったんだとならないように何とかその間の代替案を考えたいのだと思う。
- ・そしてその間にやって出来たものの評判がよければ、そこにずっと居ようと考えている訳ではなく、むしろ良いものを作って欲しいという世論になると考えているのだと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・つまり、ここで書かれている代替案というのは、テナントで3,840m² を実現するのではなく、1,000m² とか1,500m² 位の繋ぎとしての意味なのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・そのとおり。事務局としては、委員会として、3,840m² のテナント入居という案を出してしまうと、常滑市がそれに乗っかって終わりにしてしまうというのを懸念している。

(豊田雄二郎 委員)

- ・自分が冒頭投げかけていたのは、2030 年度に整備するというのを安易に諦めていないかというもの。規模を小さくしてでも可能性を探りたいと考えている。

(山田朝夫 委員長)

- ・それが例えば、1,500m² で良いのであれば話はまた別だが、3,840m² となると 2026 年度からすぐに事業を進めるのは難しい。
- ・基本構想が出て、図書館整備基金を作ろうということになって、積み立てが始まれば、その流れは止まらないと思うが、2026 年度からすぐに始めるという案を出しても、他にもやらなければいけない事業があって、基金を 10 億円以上取り崩さない予算が成立しない今の常滑市の状況では、とても議会を通るとは思えない。

(豊田雄二郎 委員)

- ・前回もお話したが、他に何をやらなければならない、何をやめるべきということまでは、この委員会では議論する必要はない。
- ・あくまでこういった図書館があるべきだということを基本構想で言いたいと思っている。また参考資料 1 の 97 頁では、事業スケジュールが「一般的な例」とされているが、他の委員もこのスケジュールで 2030 年に開館して欲しいと考えている。それが委員会としての意見として間違いないと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・もし、この策定委員会が諮問機関であるなら、委員会からそのような意見を頂き、市がそれを引き取り、判断して、市として計画を作っていくことになる。
- ・しかし、第 1 回策定委員会でそのように事務局からご説明させていただいた所、ここは基本構想を策定する委員会だと皆さんおっしゃられ、今に至っている。
- ・逆に、諮問する機関だということであれば、委員会としては、理想論を示すだけで良く、それを受けて、市として理想はそうだと思うが、財政のこともあるので代替案としてこう考えるということになる。

(豊田雄二郎 委員)

- ・理想の図書館を 2030 年に開館するんだという基本構想をここで作ったら、それは強制力を持つのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・仮に委員会でそのような意見でまとまったとしても、議会を縛ることはできないし、議会から「これで向こう 10 年間の財政計画は立つのか」と聞かれたときに、応えられないので、出せない。ある程度、基金が貯まって目途が立てば先に進めるのだと思う。

(久田博司 委員)

- ・しかし、今の毎年 10 億円近い赤字が出ている財政状況では、いつま

でたっても、そんな状況にはならないのではないか。それでは、元々できないのに、何でそんなワークショップを始めたんだということになってしまう。

(山田朝夫 委員長)

- ・当時は「鬼崎地区・常滑地区から図書館が無くなってしまったじゃないか」という所から始まっている。当然「良いものが欲しい」という意見もあると思うが、本館は 1,500m² であったので、市民アンケートにもあったような「小さくても良いから、とにかく早く欲しい」「各地区同規模で良い」などそういった色々な意見があると思って始めた。
- ・しかし、いざワークショップを始めてみたら、「テナントでも良いから、その代わり早くしてほしい」という方も多くいたが、思っていた以上に、「新築で良いものが欲しい」という結果だった。

(豊田雄二郎 委員)

- ・言葉尻を捕らえるようで申し訳ないが、事業費がどうなるか今、分からないとは思いますが、仮に 1,500m² の図書館であれば、自信を持って議会に出せるのか。

(山田朝夫 委員長)

- ・自分だったら、その案は出さない。なぜなら今時、1,500m² の中央図書館は理解が得られないからである。

(井村美里 委員)

- ・参考資料のスケジュールでは、2026 年度から書いているが、常滑市の場合は、この前にお金を貯める期間があって、最低でも 10 年かかるというのが資料上のスケジュールか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・常滑市以外の一般的な例で、すでにお金があって、今からスタートする例で、資料の n - 3 年度までに基金を貯めるというものだと思っている。

(山田朝夫 委員長)

- ・以前、紹介したように、議会の一般質問でも「まずはお金を貯めて」という提案をしている。ある程度、基金が積み上がってくれば、「新築も良いのでは」となるかもしれないが、n - 3 年度が 2026 年度という、なかなか議会を通らないと思う。

(中井孝幸 委員)

- ・ただ、このスケジュールでいくと、基本構想を作っても、5 年間は塩漬けになってしまう。基本構想としては、こういうスケジュールでやっていくというのを書いても良いのではないか。
- ・策定委員会としては、まずは理想を掲げる。そしてそれを受け、市が色々考えて、こういった形であればと決断すれば良いと思う。もし

かしたら、面積が減ったり、場所が変わったり、スケジュールがずれたり色々あるかもしれないが、基本構想のとおり進んでいく図書館の方が珍しい。

- ・普段なら面積を減らして良いと発言することはないが、事務局の方から包み隠さず資料をいただき、山田委員長からも腹を割った話をしていただいているので、この委員会ではそれで良いと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局に言って「おわりに」の中に記載してもらっているが、自分もこの委員会で議論したことは、全くその通りだと思っていて、出来ることなら理想の図書館を作りたい。仮に代替案のようなことになったとしても、基本構想にある趣旨を可能な限り尊重してほしいと思っている。

(豊田雄二郎 委員)

- ・一方で、色々な議論を経て、最終的に意見をまとめたものの、それぞれの委員の思いはコメントとして別に残すというのは、非常に合理的だと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・やはり、一致した結論という訳ではないし、例えば同じテナント型の話をしていても、井村さんと山際さんではニュアンスが少し違うと感じ、コメントを入れる提案をした。

(井村美里 委員)

- ・何年先になるか分からないとしても、その間に何かするということが非常に重要だと思っている。今の図書館に対する熱い思いが、ここで途切れてしまわないように、お金がかかるかもしれないが、基本方針で書かれていた思いがこの先も膨らんでいくように、何かを持続してその間を繋いで欲しい。市民活動の始まりの場所にしたいということなどは、今から始めることができる。

(豊田雄二郎 委員)

- ・たしかにソフトをより強化することにお金をかけて、サービスを充実させるというのは今からでもできる。
- ・なにも新しい図書館ができたならスタートという訳ではないので、来年度から始められることはたくさんあると思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・話は戻るが、副市長の立場はいったん外れて、委員長として理想の図書館を示すとしてはいただけないだろうか

(山田朝夫 委員長)

- ・それを受け止めてどう動くかは、常滑市に委ねていただくことで良いのか。

(豊田雄二郎 委員)

- ・そもそも、この委員会に市をどう動かすのかの決定権があるわけではない。財政的な所まで入って行って、30年間で何億円までなら大丈夫と決めるものでもないし、決められない。それが分かるのは、市長であり、副市長であり、議会であると思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・それでは、はじめに委員の方に策定委員を依頼した形ではなくなってしまうが、そういった性格の基本構想とさせていただくこととしたいと思うがどうか。
- ・どの位なら大丈夫という質問を久田委員からもいただいたが、地方の財政制度や、税金、交付税はどんどん変わるものであり、確定的な数字が出せるものではない。予測ができるような、できないようなところで、それでも常滑市が倒れないように、現状を見ながら、毎年少しずつ修正している。
- ・建設費も上がるかもしれないが、給料が上がれば税収も上がるので、もしかしたら資金が調達しやすくなる可能性もある。

(中井孝幸 委員)

- ・常滑市が倒れないためにも、図書館がいたと思う。

(井村美里 委員)

- ・自分は、図書館が希望であってほしい。

(山田朝夫 委員長)

- ・図書館が必要だというのが、常滑市の一般世論ではないと感じているが、先ほど豊田委員が言っていたように、良い図書館がないことは、常滑市に移り住みたいと思う人たちにとっては、マイナスの要素である。
- ・自分が常滑市に来たのは15年以上前で、その時、旧本館を見て、何でこの市は図書館にお金をかけて来なかったのかと感じた。
- ・色々な事情があって、図書館に力を注いで来れなかったが、ようやく良い方向に進み出したと思う。少し時間はかかるかもしれないが、その流れを確実にした方が常滑市のためだと思っている。

(豊田雄二郎 委員)

- ・2026年に事業化するのが難しいと判断するのであれば、最低でも、2026年度から図書館建設基金を積み始めてほしいということは伝えておきたい。

(山田朝夫 委員長)

- ・それでは、この基本構想のあり方をまとめていきたいと思う。
- ・提案した内容を常滑市がどう受け止めるかはともかくとして、図書館はこうあってほしいという意見を出す。
- ・そして、そこに2026年度から基本計画を進めるというスケジュール

を盛り込む。

(豊田雄二郎 委員)

- ・当局だけでなく、市民に向けても出す。市民の後押しというか、例えばこういう図書館が欲しいということを市民が納得するのであれば、策定委員会の意見としては間違いないと思う。
- ・基本計画が無理だとしても、基金を積み立てるなど何らかのアクションは起こして欲しい。他の委員の方もそう思っていると思う。

(久田博司 委員)

- ・できればきちんとした大きさの図書館が立ってほしい。それが駄目なら、2,500m²でも、複合施設の案でも良いが、このまま何もなくて進んでいくというのはやめてほしいなどと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・代替案はどうするか。

(中井孝幸 委員)

- ・時間がかかることが前提になってしまうと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・策定委員会の位置付けが変わったので、代替案は書いても書かなくても良くなってしまった。もっといえば、代替案が必要だと思ったら、それを考えるのは行政の仕事ではないかということ。

(中井孝幸 委員)

- ・現在の基本構想(素案)には書いていない、DBやPFIなどの整備手法とともに、手法の一つとして書いておくのは良いと思う。

(豊田雄二郎 委員)

- ・冒頭にも触れたように、整備手法の一つとして、民間の視点が入っていないので、そういったことにも触れた方が良い。

(山田朝夫 委員長)

- ・これまでの議論の中では、例えば3,840m²でテナントに入るとか、PFIを活用してなど書いてしまい、あまり選択肢を残してしまうと、行政がそれに乗っかって採用にしてしまうのではないかと危惧していたと思うが。

(中井孝幸 委員)

- ・建設コストを縮小する手法の一つとして、面積の縮小は入っていて良いと思う。目安を例えば2,500m²とか書いてしまうと、その数字が独り歩きしてしまうので、機能の見直しや規模の見直しのようによ言葉で書いた方が良い。

(井村美里 委員)

- ・規模を小さくすれば、スケジュールも当然早まるという趣旨か。

(中井孝幸 委員)

- ・策定委員会としては3,840m²欲しいけど、絶対にその数字で無ければいけないとこだわっているわけではなく、事業化を進めることが

できるのであれば、面積や機能の縮小あるいは再検討も必要ではないかという意図で書いておきたい。

(山際史子 委員)

- ・代替案ではなく、本編に書いてしまうということか。

(中井孝幸 委員)

- ・そのとおり。基本構想では、面積や機能の縮小という言葉だけで書いておいて、具体的にどうするかは、基本計画で考えればよい。
- ・全国的に建設コストが上がっているなので、基本構想で出した面積から、設計の段階、入札の段階と少しずつ下がって、何とか事業が進んでいくのだと思う。

(山田朝夫 委員長)

- ・事務局は、次回までに修正内容をまとめておくこと。

委員のコメント（巻末）

(山田朝夫 委員長)

- ・期限はどれくらいまでを考えているか。

(事務局)

- ・3月上旬で期限としたい。提出方法などはまた追って連絡する。
- ・次回第8回が予定では最終回となっている。当日は市長が出席を予定しているので、委員のコメントを直接、市長にぶつけていただくような形をとりたいなど思っている。

3 その他

- ・なし

4 閉 会

- ・次回の委員会は令和8年3月19日（木）午後2時から開催
- ・会場は、常滑市役所を予定